

1 デング熱の国内発生事例について

1. デング熱とは

デングウイルスが感染しておこる急性の熱性感染症で、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹などが主な症状。ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することでウイルスが感染する（蚊媒介性）。

ヒトからヒトに直接感染するような病気ではない。また、感染しても発症しないことも多い。

熱帯や亜熱帯の全域で流行しており、東南アジア、南アジア、中南米で患者の報告が多く、その他、アフリカ、オーストラリア、南太平洋の島でも発生あり。最も日本に近い流行地は台湾である。

日本では、海外において感染し帰国後発症するいわゆる輸入症例が、近年は年間約 200 例報告されている。

過去 60 年以上国内における感染報告はなかったが、2014 年 8 月、国内感染事例が 1 例確認され、その後合計 160 例となった。

2. 発生件数

◇全国 160 例（平成 26 年 10 月 31 日現在）

感染したと考えられている場所

- ・東京都代々木公園周辺（128 名）
- ・その他東京都（19 名）
- ・千葉県千葉市（1 名）
- ・兵庫県西宮市（1 名）
- ・不明（11 名）

3. 過去の県内発生数（すべて海外からの輸入症例）

平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
1	0	2	3	0

4. 対応等

① 医療機関等へ通知

- ・デング熱の国内感染症例について（第一報）（H26. 8. 27）
- ・代々木公園周辺以外の場所におけるデング熱の国内感染症例について（H26. 9. 5）
- ・デング熱国内感染事例発生時の対応・対策の手引きについて（H26. 9. 12）

② 県ホームページでの注意喚起